



無限螺旋

成年向
FOR ADULT ONLY









おっ...ッ
まだ出る...ッ

おっ!
はっ!
はっ!

おっ!

だめ...ッ

瞳内...はあ...

うー
搾られるー♡



たっぷり
出してよ
あげてよ

おっ!

いいよ
いいよ

彼女そっくりの
好きなんだ



地場サン
マジで大丈夫
なんすか?

おっ!

おっ!



な...んで...

うわすげー
出ちた

おめー
ちまとは
遠慮しれ

ま...ッ
衛...さ...

ど...して...
貴方...が
こんな...

じゃ 次オレ
挿れまーす♡



オネーサンも
気持ちよく
してあげる♡



おー
いってる
いってる♡

スツゲちゃんこ
締められる♡

「〜♪」
息子と娘が学校に出て行き、広々とした我が家
に掃除機をかけ、その間にまわっておいた洗濯物を
ひとつひとつ物干しにかけていく。

久しぶりのいい天気洗濯機は既に三回転
目で、育子はとてもいい気分だった。

「奥さん」
ふいに、後ろから低い声が忍び寄る。
「奥さん、米屋です」
「きゃっ…!」

「あ、あの…今日は、結構ですから…」
「そうですね? じゃあ、まあ、お手伝いしますよ」
「いえ、あの…!」

昨夜の情事を思い出して、一瞬かたくなつた
体を後ろからくいとみあげられる。真っ白な
エプロンに包まれた豊かな乳房が、たぶんと形を
変えた。

「あ、あ、あの、今日は、本当に…結構ですから…」
一度きり、の約束だったじゃないですか という
言葉が、のどまで出かかると。しかし朝方、昨日のは
夢だったのよ、と自分に言い聞かせたのに、逆に
現実へと戻ってきてしまう気がして、それ以上言葉が
出ない――



奥さん、米屋です!!! (笑)
うさぎママです。幼い頃観たアニメや漫画を
読み返してみたら、いまいち人妻に出会った、という経
験は皆さん豊富にしてらっしゃると思いますが、
いい育子で名前がもうなんか早産です。はあはあ

セーラー戦士が
部屋で寛いでるって
変な感じだね

衛さんがこの姿で
来るようにと…

ああ イヤ
そんな
だけどさ

悪かったね
急に

いえ…

実はさ

冥王星が
「降格」された
じゃない？





...



それは...
聞いています
学会でも
数年前から
議論が...



ええ...

ほっ

それで君の
戦士としての任を
解こうなんて話じゃ
ないんだ

ああ 誤解
しないで

そのことで
何か...

”堕ちた
戦士”って

いい響きだと
思わない？



僕らも
人間 だろう？



こんな
運命的な時に

睡眠薬なんて
安直だったかな



刹那くん



衛々……ん

何……を……

頭が重い…

私の家じゃ…ない…

知らない…匂い…?
甘…い…?



う…

おはようブルート

俺さんの…

おはよう
ブルート



ああ…歯は
立てないよ…ね



何!?

これのど
ちんかな?
フリフリ
してるよ



う…すく…
出そうだ…う

衛さん…



ッ!!

何を…してるの…

ああ…

ホラ全部
吸って…!!

熱…
な…

あ…
あ…
あ…

何か…飲ん

ああ…

あ…
あ…

苦…

空…気…

か…

縛…られ…?

ダメじゃないか
あ…あ…

君に仕事を頼みたい

精液便所になつてくれ

今までの任務ともつひつ

何…？

今のは特別に許すけど

今後一切

出された精液をこぼしてはいけないよ

何…を言つて…

はは

そんなに怖がらなくていいさ

…じきに君もよくなる

あ…じ…!?

はあッ

よく擦りこ
あげようね

あ...う...

あ...う...へ...

は...

あ...う...

あ...う...
あ...う...

い...や...

勃...起...!!

乳首が...
熱くて...
脊髄...が...焼け...!!

ホラ...厭らしい
勃起乳首の
出来上がり

感度は
どうかな...?



ん...?
お薬だよ

何...ッ
した...ん...う

な...
何...を

はっ
はっはっ

はっ...う



思い切り
増幅させて
くれるからね

体・
の気持ちよき
だけを

大丈夫
君の強い意志は
そのまま

あま
あま
あま

あ

あひ



胸だけで
随分感じる
んだね

ん？

もう
イキまじっ？

あーあー

あーあー
あーあー

あーあー
あーあー



これだけ
大きいと余計に
感じ易かったり
するのかな

私...こんな...ッ...

私...こんな...ッ...

あーあー

あーあー

あーあー

あーあー



やっぱり
コッチかな？



胸でイか
せるのも
楽しそう
だけど…



ねえ？



…

衛…さん…

ん？



……

……



あ…あなたを
は…

軽蔑します……



あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

熱い...

硬い...

奥...

キス...して...

あぁあぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

意外と…

あはは

浅い…んだね…ッ

体…が…

全然…言うことを

聞かない…い…

開通…たんや

動…ッ

動かさ…な
…ひれえ…っ！



ココが
感じる
のかな？

潮も
噴けるんだ



...う...う...う...



中...う

膣内...で

...う...う...う...

ああ…吸い付いてくる

子宮が精液を飲んでる…

知…らない…う

美味しいんだね…？

れろ

こんな…の…私…いつ

ら…め…

膣口が男性器を食んで…

ちんぽ

ちんぽ

あ…

は…

あ…

は…

やあ…ん

あ…あ…

動…

膣中に塗りたくられて…

精液が…染み込んで…

あ…

ちんぽ

ちんぽ

あ…

は…

ちんぽ

だめ…

もう一発

だめ…

だめ…

出す…

だめ…

だめ…

は…

あ…

だ...めえ...♡

は...

は

あ

随分気持ちよくなっちゃったね

は...

あ...

は...

は...

は...

は...

は...

は...

は...

は...

は...

は...

は...

は...





ホラ
いい顔して

ビヤーン

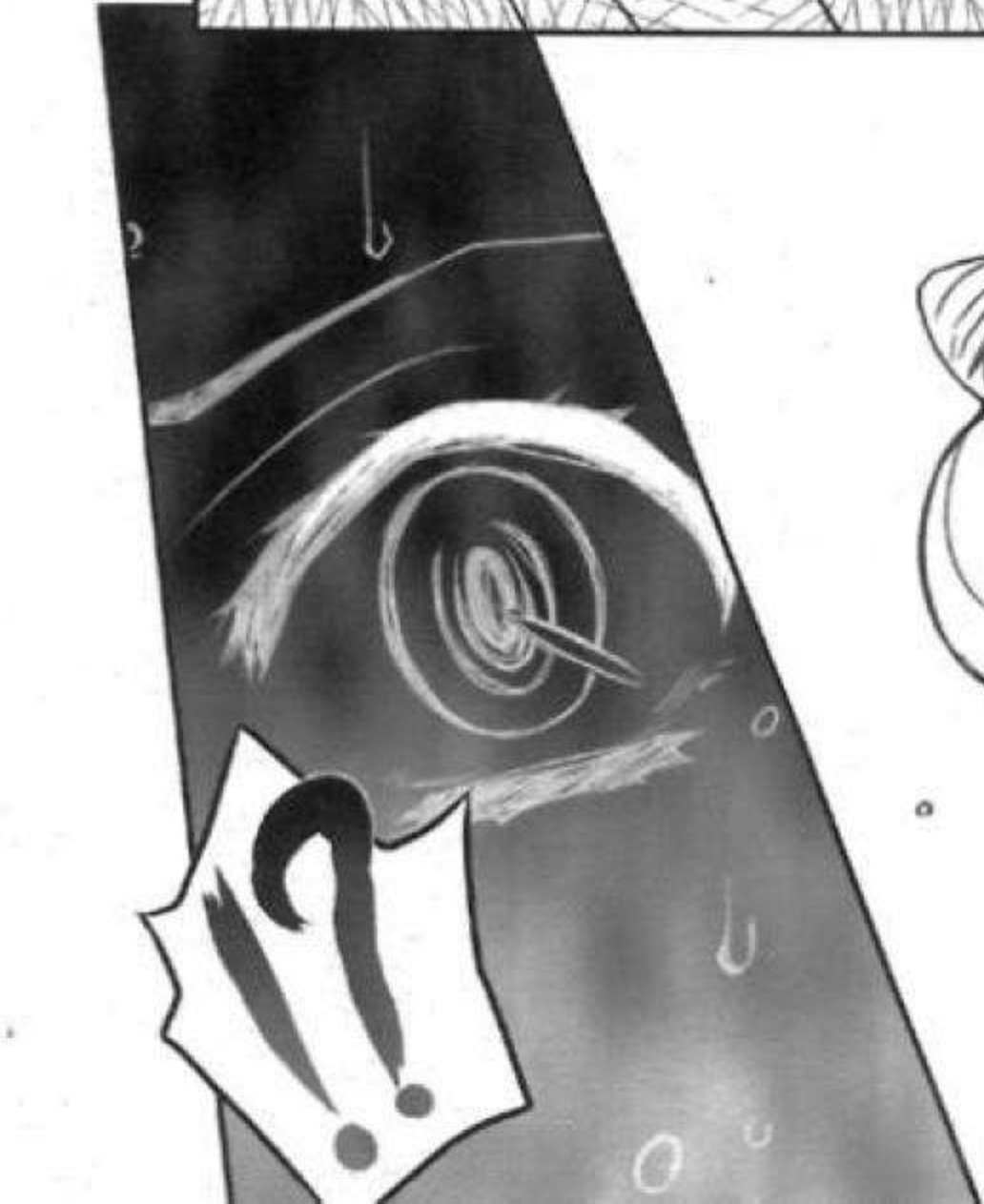
はい...はい...はい

いいだろ？

.....カメラ...？

先日買ったばかりなんだ

なんで...カメラ...が...



ちびうさの性教育にいいかなと思つてさ



お

助けてっ

助けてっ

ヘルプーッ

誰か

ヘルプーッ

玄関っ

逃げなきゃ

助けてっ...

ブルート!





あ
開いてた

ちゅーす

こんちゃーす

助け…

あ、これがその
お姉さんスか！



ああ

え…？

いっしょに

入って入って

うっそ！俺
超ストライクー♥

なにに…？

お邪魔
しまーす

あ カメラ
つスカ

いいな

うわ マジっ

そん...な...

うちのお姉さん
縛られてる!

たぬ

あ 鍵
閉めといて
くれる?

俺 臆内に
出しちゃったけど
シャワー浴び
させようか

いやー
イイツスよ

早く
してー♥

最初の
お客さんだよ

おっ...

さーお姉さんも
行くー行くー♪

い…や…

あ、アレでしょ
セーラーームーン
でしょ！

ちよつと
キツくね？

ソレって
コスプレすか？

バツカちよつと
無理があるのが
いいんだって

いやあめめ…し…

いやーむづちや
楽しみー♥

ら…さ…し…

オレ
楽しみ過ぎて
チンコいてー(笑)

じゃ
ま

好き♡♡♡



逃げ道なんて
どこにもない

運命は変わらない

現在と未来が まるで

無限に続く螺旋のように
絡み合つて

解けない

ちびうさといっしょに学校帰りに
まもちゃんちに寄ったんだけど、ま
もちゃんいなくて そのまま2人で
昼寝しちゃった☆

だけど気がついたらまもちゃんが
帰ってきて、いつものまにかえら
してたよお～！きゃー！

ちびうさが起きちゃうよ、って言
ったんだけど、まもちゃんてはいつ
もより硬くて あたしもドキドキし
てさちゃって、結局最後までしち
ゃいマシタ☆☆いや～ん

もしかして制服着てるから???
まもちゃんもあたしもすっごく燃え
ちゃって、声とか我慢できなくな
って すっごく感じちゃった…☆

ちびうさ起きなくてほんとによか
ったよお～



うさぎは色ボケだと思わんでしょ…(失礼な)
漫画では確か、留さん高専生だったと思うん
ですが、なんでアニメで大学生になったのか。
大学生と女子 OJ ★学生で、
スタッフくっしょいと書きたい、大声で書きたい、
—あ、5/27/20は私とてきまつ

いつもの電車に乗った筈だったが、その日はついていなかった。

(…やだ…赤漢…)

昨日買ったばかりの文庫本がプロローグを終えた頃、亜美は異変に気づいた。

赤漢自体は、珍しいものではなかった。スカートの上からお尻を触られて、亜美は居心地悪そうに身をよじる。

(もう…早く着かないかな…)

今日の講習会がある駅まで、まだ30分以上ある。赤漢は勿論歓迎されるものではなかったが、大声を出して大事にするのも、いつもためらわれた。

『ほんとだ…全然拒まないんだな』
小さい咳きか聞こえたかと思うと、急に腰回りが弛んだ。

(17)

何時の間にかスカートのホックが外れ、前がたくし上げられている。
(い、いや…!!)

慌てて逃れようとするが、今度はセーラー服の裾から男の手が侵入してくる。

『しかも掲示板で見るとより可愛いよ…』

今度は別の男の音がする。男は無遠慮にセーラー服を捲り上げて、ブラと胸の隙間に手を入れてきた。

(掲示板…!? 何の話を…)

亜美がまごついていたら、股間に熱いものが挟まれた——白いパンティを突き刺すように、前後運動を繰り返しはじめる。

(いや、いやっ…なん、なの…!)

反射的に脚を閉じると、腿の間をぬるりとした液がつつあっていく。

(こんなの、いや…!!)

モジモジと腰を捻る亜美の姿を、車両中の男がニヤニヤと見ている気がする——

亜美ちゃんは赤漢とかされても黙ってる子。寵愛されるのは嫌だけど、大団に騙いで大事にしちゃうのも、なんか悪いな…と思うちゃう。いじめて子なのです。なのですよ。なのですったら。ちかんはためですよ! セッタイ!

「う…ねえ まだあ…？」
じゅる、と涙を吸りながらレイが
舐める。
「早くしないとおいちゃん帰って
きちゃう…」

以前見つかったから、じいさんには
目をつけられている。久しぶりのレイ
の部屋は愛の匂いが新鮮に感じた。
「まだ、休んでないでもっと舐めてよ」

「んっ…もう…」
じゅろっ、じゅぶ…びちゃ、びちゃ…
「あ、そこイイ…」
レイの舌がかり首まわりを這う。最初
は嫌がって握ってもくれなかったのに、
随分上手になった。

れる、ちゅっ…ちゅば、ちゅるるっ
玉のつけ根から竿をねっとり舐め上
げ、亀頭を口に含んで吸りたてる。
「んむ…さよ、は…お口だけだからね」

「えー？」
もじもじと揺れるレイの尻に沿って、
足で袴をズリ上げると、かわいい
レースのついた下着が現れた。
「なんだよ、レイだってやる気じゃん」

「んぐ、ちよ、ちよっとお」
「マンコにもちんぼ欲しいだろ？」
「うう…」
「いっぱい精子出せたらそっちにも
入れてやるからな」
「ん、うぶ…ふわあい…」

ラブラブ…ほい感でアシですが、
レイちゃんほどM。





部屋に帰ると、まことが台所に立っていた。
「来たのか…ん？」

「へへ…喜ぶかな、と思ってさ」
はにかんで笑うまことは、愛用のエプロンの他に
何も身に付けていなかった
「おお～はだエプじゃん！」
「あ、あんまり見ないでよ、お尻とか丸見えで…」
「そこがイイんだよ～」

服も替えずに、まことの足元にしゃがみこむ。
「ん～イイ眺めだな」
「こ、こらっ」
「てもなんか足りないような…」

シンクの上を見ると、新鮮な野菜が並んでいる。
その中から手頃なキュウリを手にとって、まことの
秘部に押し当てる。

ちゅく…
「ひゃっ!？」

「手は休めるなよ～オレ腹減ってた」
「だ、だって…」

ちゅく、ちゅく…ぶちゅっ
膣口にキスするように、キュウリの頭を動かす。
「あ…うん…っやだあ…」

ちゅぼ、ちゅぼ…
段々と水音が大きくなり、キュウリの頭は
ぬらぬらと厭らしい粘液で光り始める。
「だ、だめだよ…それ、サラダにしよう…」
「じゃあ、ちよどいいじゃん
まこと特製愛液ドレッシング～♪」
「ば、ばっっ」

ラブラブ新婚風味ではありますが、

まこちゃんは悪い男にひっかかる。
あとおっぱいげしからない。

「どうどう? 負持ちイイでしょ?」
彼女の私物だというセーラーVのコスプレ衣装は
すごいクオリティの高さで、まるでホンモノのようだ。

初めて入った店だった。
カウンターに置かれたコスプレのカタログを
見ながら、「セーラーVはないの?」と店員に聞くと、
「あたし持ってますよお」
と店の奥から声を掛けたのが彼女だった。

「珍しいでしょ! 今は結構セーラー戦士が
流行ってるから、Vは置いてないんだよねえ」
「あ、ああ…でもやっぱりVがいいよ、そのおへそが
見える感じが…」
「そう? ふふーん、お客さん分かってる☆」

ぬるぬる、とローションのたっぷりついた足で
僕の性器をまさぐる。指の股ではさみ、先端で
亀頭を撫でまわして、足の裏ではさみこんで
にちゃにちゃとしこき上げる。なんだか知らないが
ものすごくご機嫌な顔だ。

「でもさ、もうちょっとその…しゃべり方どうにか
ならない? こう、セーラーVっぽく カッコよくって
言うかさ」
僕が小さなリクエストを口にすると、彼女は少し
ムツとしたような顔で応える。
「…でもお、Vちゃんだって昔はアツいのよ
こ〜せ〜! とかしてるかしんないよ? 素顔は
こんな風に、えっちなお店で働いてたりして…」

「…」
そう言われると逆にリアルな気がしてきた。
彼女(ミナでーす、と名乗った)の長い金髪が、
本当にVに足コキされてる気分させてくれる…

「あ、あ、出るかも…っ」
「うんっ? いいよお Vちゃんにいっぱい
かけちゃってねえ☆」

あんまり機会がないですけど、足コキ好きです。
レイちゃんもそうですが、セーラー戦士の衣装に
足元パンプス、てものすげーエロスを感じます。

***知らない人へ〜 グーナスはもともとひとりで
セーラーVとして活躍してたんだよ。

「そろそろ全部切っちゃう？」
「ん～もうちょっとこのまま堪能したくねえ？」

彼女のパンツはショーツごとカットされて、まるでカットジーンズのようになった。それも如何わしい店のよりに、残っているのはごくわずかにギリギリの股布だけ…

「ていうか、マン肉はみ出てるし」
「あ、オレ写メ～」
薄暗いトイレの個室に「ピロリン」と可愛い音が響き、シャッターと同時に亮ったライトに天王は僅か目を細める。

「実は結構巨乳っぽくねえ？」
発端は昼休みの何気ない会話だった。いつも学園中の女子生徒の視線を一人占めている天王はるかのことだ。
「ああいうのに限って付き合ったら意外と女らしくたすんだって」
「下淫乱だったとか」「ていうかまだ処女なんかな」
…何故そこまでエスカレートしたのかは覚えていない。
「じゃあ、今日放課後な」と約束して、僕達は別れたのだった。

腕っ節が強いのは知っていたので、誰かが失敗してきたクロロホルムを使った。
気を失ってしまえばやはり女で、軽々と人気のないトイレへ連れ込むことに成功する。

「…やっぱ巨乳じゃん」
「おー、結構…」
ピロリンとまた音が鳴る。

「あとは…」
ゴクリ、と誰かが唾を飲む音が響く。
「処女、かどうか？」

天王はるかは何も言わず、ただキツい瞳でこちらを覗いている。

しかし真っ赤に染まった顔と、かすかに震えて粟立つ意外にも真っ白な肌が妙に艶かしくて、やけに興奮する…

はるかさんと言えはしズかもしんないのは承知の上で、バラしてみました。女の子らしく描くのは意外と難しいです。お気づきの方も多しとは思うのですが、このポーズがすげー好きです。げへ。

天王はるかの携帯から、すぐ番号は判った。次は、海王も…と誰が言い出したわけではなかったのだが、そうするのが自然なように誘いのメールを打ってみる。

恋人からの呼び出しではないことに気がついた海王みちるは、すごく不機嫌な顔をした。絶望でも非難でもなく、ただすごく不機嫌な顔だった。

大声を出したくないのは天王はるかと同じだった…不愉快そうにゆがめられた唇に、誰かがペニスを含ませるとそれを合図に我も我もと八方から手が伸びだす。

唇の隙間から、くもった吐息が漏れる。優雅な会釈とともに、あるいは僅かな侮蔑とともに、ほんの一言挨拶の言葉を生み出すあの高潔な唇が、赤黒い男性器に蹂躪されていく様はすごく扇情的だ…

イメージ先行で絵を描いたんですが、みちるさんがレイプされて泣き喚く様子がうまく想像できなかったです。くっみちるは、はい、はるかれず。



その日衛が持ってきた「お菓」はいつもと少し違っていた。

衛が呼び出したとき、ちびうたとともに電車に乗り込んで、10分ほどが経過した頃だろうか。
(…！?)

胸の先端に疼痛感を覚え小さく身をよると、コートのボタンがいつもより張っていることに気づく。
(胸が…張って…)

じく、じく、と乳首を発信地に伝わる熱が、体を包んでいく――

目的地の公園に着いたときにもう、ボタンはギリギリの状態で留まっていた。ふとした拍子に弾け飛んでしまわないように、猫背気味に三人の後ろを着いていく。

「せつな君、顔色が悪いみたいだね」

衛が心配げな顔で覗き込む。その瞳にはいつもの冷たい光が宿っている…

たごとちびう次に先に行くように言い、衛は隣のベンチへとせつなを促した。

「効いてるみたい？」
まるで好意をいっばいの少年のように衛が問う。
「前を開けて」

コートの下に服を着ることは許されなかった。周りに人影がないのを確認して、そとコートを開く。ただでさえ大きな胸がパンパンに張り、先端から薄白い汁を垂れ流していた。

「スモールレディ達が、戻ったら…」
震える声で、せつなが小さく抗議する。
「大丈夫だよ、見てるから」

衛は自分のひざをポンと叩く。犬に「おい、」と命じるように…

「無限螺旋」のちょっと後、というあたりで…HPでブルッたします！と言ったら「年相的に母乳が出たりしないかなあ」とメッセージを頂き、「母乳が出る年齢ってなんだ!」とわけのわからぬまま衝動に駆られてみました。^^

「ほたる、今日はネコちゃんの服だよ嬉しいだろう」

ペリは毎日、朝起きると私の様子を見に来てくれます。

「よく眠れたかい？熱はないかな？」

そういつていくつかメモをとってから、お洋服を選んでくれます。お洋服を着替えて、しばらく、ペリと遊ぶ時間です。親子の交流は大切な時間だからね、と言って、毎日欠かさず私の為に 大事な研究の時間を割いてくれます。

「ああ…ほたるのお尻は柔らかくて…スベスベで最高だよ…」

ペリは毎日わたしのことを褒めてくれて、たくさん可愛がってくれます。

「ほたる…かわいいほたる…」



また尻指いですみません。だってほたるちゃん
は尻穴がつかえる子！しかも超上尻穴。
ペリの方針により僕は処女、だけど知らないまま
「おまんこにも入れてください」とか言わされて
そのつもりないのに処女を散らしてほしい、うら

きょうは、まもちゃん、フーと、うさぎとっしょに
てんやのって、こうすけにいった。

ちゅうと、フーがけんきがなくなつて、
まもちゃんが「おれが、みてるから、ひたいで
おそいでおいで」といきました。
まもちゃんは、いつもあこくやとしくて、
大あきなひであ。

ほんとは、フーがしんはいだつたし、まもちゃん
いっしょにいたかつたけど、うさぎがひとりに
なつたらかわいそうだつたからついていってあげた。

だけど、おいしいのあるところへついて、
「わあ、ちびうさみてー ひろいよー」と
うさぎがいて、あこくしてしまった。
うさぎははかだとおもう。

だけど、おしっこがしたくなつたから、トイレ
をさがしたけど、なかつたから、うさぎがねている
おしっこにこっせいKそのところをしよう
おもつたけど、とつせうさぎがおきて、
「ちびうさー、ちびうさー」と大こえをよぶから、
びっくりしてはれつぼもらしてしまった。

おきにいのはれつぼだったので、うさぎのバカ!
うさぎはバカだとおもつたので、
きょうのはれつぼのハンバーグもこ
おおくたへた。
うさぎ「ちびうさ、こおおくない?」
といつたけど、「おおくない。」といつたら
「ほ〜ん」といってた。
うさぎははかだとおもう。

Rで登場したときのむむむちびうさなちびうさが
好きなんですけど、Sで変身するようになって
ちょっとスレンダーになって、なんかその辺の記憶
がツチャツチャして気づいたらすぐ中途半端な
体型になってしまいました…

おもらしは幼女の標準装備。

おんやにゃーおんやにゃーおんやにゃー

これはまたアタシが
月野家に来て
間もない頃の話

ただいまー

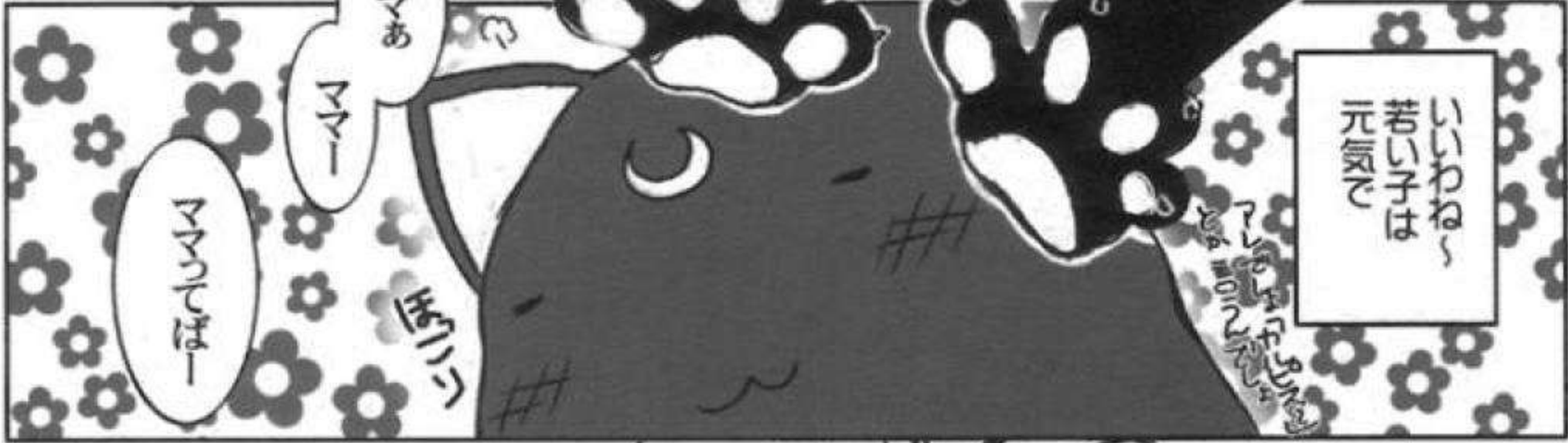
あ

ただいま
ルナ



おかえり
進悟くん

おんやにゃー



いいわねー
若い子は
元気で

ママ
ママー

ママんこはー



あ
ねえママ
セックス
しようよ

ニヤン
ですわー





はっ

もう…仕方
ない子ねっ

ちよ…ちよっ
だけよ？

はっ

今日はつらき
早いって言うて
たんだから…

はっ

はっ

はっ

はっ

ま
ちっ
な
♡

そんなこと言っ
ママもこんなして

早くほくの
ちんちん欲しい
んだよね？

ね？

バカ言わ
ないのっ

早…くう

はっ

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ





ふふ...甘えん坊さんねっ...♪

今日は...外に出してね

ママ...危ない日だから...っ

やだっ

ちゅぽっ
ちゅぽっ



あ...やつだめえっ♡

ダメなのお...っ♡

めほっめほっ

いいじゃん妊娠してよママッ

僕のちんちんで受精してよっ

ちゅぽっ
ちゅぽっ

ちゅぽっ

ちゅぽっ

